

1 **Q4** 「人権感覚」の育成に深く関わる「価値・態度的側面」に示された「自己についての肯定的態度」や「多様性に対する開かれた心と肯定的な評価」とはどのようなことですか。

5 **A** 「自己についての肯定的態度」とは、自分を大切な存在だと思い、自分に自信を持っていることを言います。「多様性に対する開かれた心と肯定的な評価」とは、集団や個人の間にある「違い」を意味あるものと認め、よりよい人間関係や社会を築くために役立てていくことです。

【人権感覚を育む上で重要な資質・能力】

10 [第三次とりまとめ]では、人権に関する知識や人権擁護に必要な諸技能を人権実現のための実践行動に結びつけるためには、人権感覚の育成に関わる価値や態度の育成が不可欠であると述べ、そのうちの「価値・態度的側面」としていくつかの資質・能力を示しています。ここで取り上げた二つの内容は、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めること」ができるようになるための基盤をなすものとして大変重要であると考えられます。

【自己についての肯定的態度】

15 自分を大切な存在だと思い、自分に自信を持っていることをいいます。その構成要素には「自分が周囲から受け入れられていると思える感性」と「自分を尊重できる感性」の二つがあるとされ、特に前者は、我が国の子どもたちに今もっとも育みたいものの一つとも言われます。[第三次とりまとめ]でも、「個々の児童生徒が、自らについて一人の人間として大切にされているという実感を持つことができるときに、自己や他者を尊重しようとする感覚や意識が芽生え、育つことが容易になる」(在り方編P8,9)と述べています。

20 一方後者は、自分自身が自己を受け入れる感性とすることができます。これらの感性は、教師や家族、友人など身近な人々の共感的な姿勢や肯定的な評価の積み重ねによって、子ども自身が本来持っている力を発揮することにより育まれるものです。

【多様性に対する開かれた心と肯定的な評価】

25 「多様性」という概念には、人種や民族の「違い」はもとより、性別、年齢、信じる宗教等の「違い」なども含まれると考えられます。そうした集団や個人の持つ「違い」に気づき、それを憎悪や偏見・差別の理由とすることなく肯定的に受け止め、より望ましい人間関係や社会を創造するための「力」としていこうとする態度は、「他の人の大切さを認めること」ができるための大切な要素です。

30 また、多様性への気づきと理解に基づく、寛容で受容的な教職員の姿勢は、児童生徒が自分の思いや願いを出し合える学校・学級の雰囲気づくりにつながり、「自分の大切さを認めること」すなわち前述の「自己についての肯定的態度」を育む基盤ともなるのです。

ふりかえり

「自己に対する肯定的態度」を身に付けさせるために、あなたはどのようなことに取り組んでいますか。または、取り組めばよいと考えますか。

研修例 あなたのよいところさがし（実践編P84参照）

【目的】

- ・自分を肯定的に評価されることによる自尊感情の高まりを体験する。
- ・相手を肯定的に評価する態度を身に付ける。

【研修の進め方】

- (1) 二人一組になって、一人が相手のこれまでの行動で、良いなあと思ったことを一定時間以内（3分）で伝える。もう一人は、自分へのメッセージを頷きながら黙って聴く。
- (2) 聞き手と話し手を交代する。
- (3) 感想を出し合う。

研修例 4つのコーナー（部屋の四隅）

【目的】

人それぞれ多様な考えがあることに気づき、相互理解を深めて仲よくしていこうとする態度を育てるための参加型学習を体験し、実践につなげる。

【研修の進め方】

- (1) 広い部屋の四隅にカード（YES、どちらかといえばYES、どちらかといえばNO、NO）を掲示しておく。
- (2) いくつかの質問を用意しておき、参加者はファシリテーターが読み上げた質問への答えに該当するカードが貼ってある場所に移動する。
例 「私は旅行が好きだ」
「下級生は上級生の言うことを聞くべきだ」
「いじめはなくなる」
- (3) 一つ一つの質問の後で、数人にその答えを選んだ理由を聞く。
理由がはっきりしている場合は、意見の違う者同士を話し合わせてもよい。
その場合、どちらがよりよいかという判断はせず、お互いの意見の違いを認め合うことに重点を置く。
- (4) 学習をして気がついたことを発表し合う。
どんな意見に対しても否定はしない。